

令和5年度第4回京丹波町地域包括ケア推進委員会

日時：令和6年3月6日（水）

午後1時30分～午後3時

場所：京丹波町役場 1階 防災会議室

出席者：片山委員長、津田副委員長、荒牧委員、寺谷委員、吉田委員、村上委員、大西委員、瀧村委員、堀委員、谷山委員、津中委員（11人）

欠席者：由良委員、谷口委員、山口委員、松本委員、桐野委員、越川委員（6人）

事務局：健康福祉部：木南部長

健康福祉部医療政策課：豊嶋課長

健康福祉部福祉支援課：岡本課長、西村補佐、原澤補佐、堀補佐、中川主任

（福）京丹波町社会福祉協議会 地域福祉課：山本課長（京丹波町生活支援コーディネーター）

（株）ぎょうせい：成田

1 開会（岡本課長の司会により進行）

2 委員長あいさつ

皆様ご苦労さまです。足元の悪いなかお集まりいただきありがとうございます。本日は、介護保険事業計画の最終のまとめとなります。これまでご協議いただき積み上げてきた計画内容について、ご意見を頂ければと思います。お世話になります。よろしくお願いいたします。

3 協議事項

（1）第9期介護保険事業計画等の最終案について 資料

（説明：事務局（西村補佐）資料説明）

- ・パブリックコメントの結果について（事務局から）

令和6年1月30日から2月13日まで実施しましたパブリックコメントについて、提出された意見はなかった旨報告。

委員長：介護保険料が下がっている保険者はどのくらいなのか。また、計画書に委員名が掲載されているが、保険料が上がったとあって、委員に苦情を言われることはなかったか。

（株）ぎょうせい：全国的には上がっているところと下がっているところが、それぞれ1～2割、第8期の保険料を維持するところが一番多い。

事務局：保険料が上がったからと言って、苦情を言われたという話を聞いたことはない。

委員長：高齢者の数が減っていく状況等から、今後の施設運営等について、何か意見はありますか。

- 委員：介護保険料を納めていただいても、サービスが行き届いていかない、ヘルパーが少ないことなど運営が厳しい中で、通常に通所介護が地域密着型に変わったり、新しく小規模多機能型居宅介護ができるような計画となっているが、人材の確保が重要である。人から必要とされて、自分の役割があつて、居場所があることは元気の源になる。サービスを提供する人材が少なくなっていくためその確保が課題である。
- 委員長：支える人の人数が減っていく中で、年齢が上がってもなるべく勤めていただいて、支えてもらわなければならない状況になってきている。
- 委員：新しい人材を確保することは難しい。給与面では処遇改善の加算等による賃上げの対応がでてきているが、まだまだの状況である。60歳、70歳を超えても元気で働いて助け合える体制になってくのではないかと思う。
- 委員：介護報酬について、訪問介護の報酬が減らされるという話が出てきているが、どういう計算によってこうなったのか。分かれば教えていただきたい。
- (株)ぎょうせい：訪問介護の利益率が、他のサービスに比べて高い7.8%であったため下げたと聞いている。
- 委員：都心とは違い、こういう中山間地域では訪問介護の利益はでない。
- 副委員長：社協もヘルパー事業所を運営しているが、人材不足であり、一番若いヘルパーさんが60歳である。そのなかで、今回報酬単価が下がることは痛手である。今後事業を継続していくために、新規利用者の受け入れはしないで、現在の職員でまわしているのが現状である。町内の他の事業所とヘルパーの事業をどう継続していくかを一緒に検討していかなければならないと考えている。デイサービスについても、利用者が減少していく状況等から、報酬単価が少し上がる地域密着型へ移行し運営している。今回移行される事業所が他にあるということは、厳しい状況になってきているのかなと思う。委員長が言われるように、京丹波町は国の基準より早く高齢化が進んでいるので、違うことを考えていかないと、介護保険事業を維持していくことが厳しい状況になってくる。
- 委員：長老苑でも、デイサービスの利用者は減少傾向である。そのため地域密着型への移行を考えている。25人定員が18人を超えない日が続いていたが、直近になって増加傾向となっていることもあり、ニーズにそえるよう調整をしている。訪問介護の報酬が減ることも痛手である。入所については、元気なお年寄りが増えてきているのか、10年程前は入所者の平均介護度は要介護4、5であったが、現在は要介護3で、1人当たりの報酬単価が下がるため、同じ人数の入所者であっても報酬は減っている。他のサービスも同じような状況で利用者はあっても報酬は上がらない。職員も高齢化してきており、平均年齢は50歳でこの10年以上新卒者はない。魅力を感じていけるような事業所になるよう取り組んでいかなければならない。職員がいないと支えていくこともできなくなる。
- 委員：先日も就職フェアがあつてブースを出したが、来られた方は60歳を超えられた方1名だけであった。外国人スタッフを積極的に採用しているが、日本人スタッフは50歳代の方が中心で、5年後10年後が心配である。介護報酬が上がることは事業所としては嬉しいが、利用料が上がるため利用を控える方もある。ショートステイは他市町村から利用者確保する等工夫をしているが、入所は地域密着なので京丹波町の人しか受け入れができないため日々苦勞している。デイサービスは、在宅酸素やバルーン交換等の医療ニーズがあり、受け入れが難しい方も多くなっていると感じている。

- 委員：外国人の働き方の制約などあるのか。
- 委員：宗教上の制約がある方もいるが、最大限配慮し支援をしている。外国人スタッフを支援する委員会も立ち上げている。
- 委員：外国人スタッフの介護の質はどうか。
- 委員：言葉、方言などが難しいときもあるが、介護福祉士を取得しておられる方もあり、レベルが高く変わりはないと感じる。
- 委員長：施設の運営も難しい中で、できる限り夢が持てる町にするよう考えていかなければならない。赤字がでているため、今後の運営が難しい状況となっている事業所もある。今後は、サービスを利用する範囲が広域的になり、利用者さんも不便になることがあると考えられる。そのような場合、町としてどのような手だてをしていくかを考えていただけるとありがたい。その他、将来の展望等について何かあれば言っていただきたい。
- 委員：介護保険制度が始まったときは、いずれは利用できる并希望があったが、この会議に出ているうちに心配になってきている。安心が担保できるような制度設計にならないといけない。
- 副委員長：他の会議にも出ている中で、障害の施設整備を要望されているが難しい現状がある。高齢者向けの施設がたくさんあって、職員も不足という現状があるなかで、利用者を高齢者だけでなく障害のある方も受け入れていくことが考えられると、一から新しい施設を建てて、新しい職員を雇用して事業所が厳しいのに運営していくことはないと考える。高齢の方、障害の方や児童がいる地域のなかで、別々にサービス提供をしていること自体がおかしく、そこに何か解決策をもっていかないといけない。今ある資源で、持続可能な対応を考えていく時期にきているのではないか。
- 委員：障害者も高齢になると、介護保険サービスを利用することになる。整合性を取りながら施設整備を進めていかなければならない。
- 委員長：障害者の施設と高齢者の施設は一体的にしないと、小さな京丹波町ではやっていけない。高齢者施設の一部を障害者の施設にするなど、交流の場をつくることで展望が見えてくるのではないかと思う。現実、障害の施設に入りたい人が5人いる。皆さんが安心して暮らせるようになるといい。
- 委員：民生委員の視察で岡山にある施設を見学した。コンビニ事業ということで、若い人、高齢者など仕事をしたいという人のために、需要供給の関係で皆さんが生き生きと働けるセンターが町の中心に位置づけられていた。京丹波町も規模が小さい自治体なので、将来的にはそういう場が必要になってくるのではないかと強く感じた。高齢者や障害者など分け隔てなく、地域包括ケアシステムで弱者にとって住みやすい町になればいいと思う。
- 委員長：京丹波町は先進地と思って進めていただきたい。
- 委員：町内に介護医療院は何床あるのか。高齢化率は高いのに入所者が減っているようにあるが原因はあるのか。
- 事務局：介護医療院は町内にはない。丹波笠波病院の介護療養型医療施設は今年度末で廃止となり介護から医療の病床に転換される。介護医療院は、近くでは亀岡市にある。高齢化率が増えているのに入所者が減っているのは、医療ニーズの人が多くなっているとも考えている。
- 副委員長：高齢化率が上がっているのに利用者が減ってきている要因の一つとして、高齢者数も減少しているが、それ以上に若い人の人口が減っているため、高齢化率が上がっている。いろ

んな施策がよくなってきて元気な高齢者が増えていることもある。また、在宅で介護をする人が少しずつ減ってきて、入所希望という家族の考え方が増えている感覚をもっている。

委員：ケアハウス、サ高住の利用者が増えているのも影響していると思う。

委員長：20年程前は、運転できる女性が少なく出かけることも少なかったため、デイサービスは喜んで行っておられた。今は、運転できる方も増えて自由に出掛けることができていることも影響しているかもしれない。合併当時の人口は17,000人くらいであったが、今は12,000人台である。若い方が来ていただけるような環境作りが必要で、空き家の活用については、これからの人口を変えていく一つのポイントではないかと思う。

委員：78ページの小規模多機能型居宅介護について、令和6年度から新設される予定とあるが新しい事業所がされるのか、既存の事業所がされるのか分かりますか。

事務局：小規模多機能型居宅介護は、第8期でも新設される予定で計画をしていた。開設には至らなかったが、第9期においても引き続き開設の意向があったため計画をしている。町内の事業者が開設される予定である。

(2) その他 (事務局から)

第9期介護保険事業計画等の策定に係る委員会は本日が最終となり、貴重なご意見、議論いただきありがとうございました。委員については、令和7年3月31日まで委嘱をさせていただいているところであり、来年度の委員会においては、第8期計画の評価や第9期計画の進捗等についてご確認いただく必要がある。引き続きお世話になりますがよろしくお願いします。

事務局：委員長様のスムーズな進行ありがとうございました。皆様方から将来に向けてのいろいろな思いや考えをお聞かせいただき、第9期計画はこの場でお認めいただいたということで、今後策定を進めていくことになるが、介護保険や高齢者の方を超えて、本当にいろんな課題が見えてきていると改めて感じている。ここにおられる皆様や事業所の皆様方と令和6年度以降はこれまで以上、これまでになかったことについての協議も進めていく必要があると感じているため、引き続きお世話になりますがよろしくお願いします。

4 閉会 (津田副委員長あいさつ)

本日で計画策定に関する会議は最後となりました。いろいろな現状をお聞かせいただいたかと思っている。事業所の運営については厳しい、苦しい話をしてきたが、これまでの意見のなかで、元気な高齢者が増えてきたということについては、一定評価できる部分であり、これまで取り組んできたことの成果であると思う。それを踏まえたうえで、支援が必要とされる方に、的確なタイミングでサービスが届けられるようにはしておかなければならない。そうでないと安心にはつながらない。今後は、福祉以外の分野からのアイデアや声を聞かせていただきながら町の福祉を進めていく必要があると思う。

本日は誠にありがとうございました。